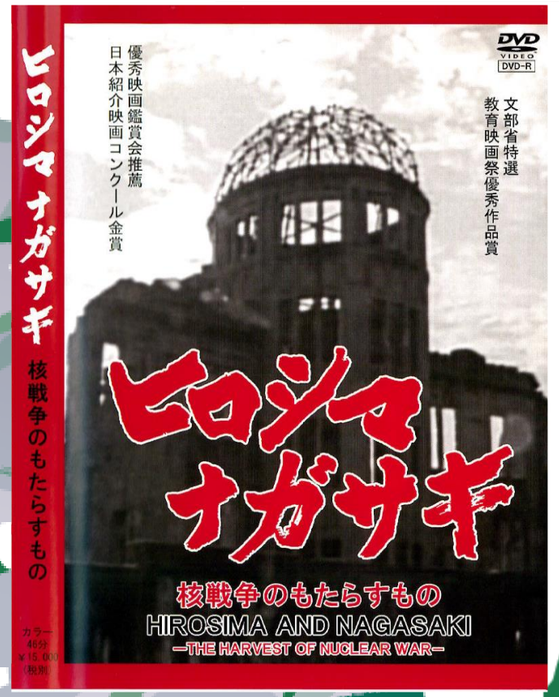
佐久視聴覚ライブラリーだより 2025年度 冬号

教材活用部おすすめ作品テーマ『戦争平和・人権教育』

佐久視聴覚ライブラリーでは「教材の配送・回収を無料」で行っています。
電話・ＦＡＸ・ホームページから申込みができます。
気になる教材があればお気軽にご連絡ください。
佐久広域連合 佐久視聴覚ライブラリー〈佐久市取出町 183〉
TEL・FAX 兼用　0267-62-7179　http://www.areasaku.or.jp

戦争平和　3　対象：中学生～一般



被爆直後の街並みや建造物の崩壊状況、熱線・爆風による物理的破壊力を克明に記録するとともに放射線による急性障害・長期的影響を、科学者達の詳細な調査・報告に基づき描き出しています。

被爆者の惨状について消費するのではなくデータや分析を通じて「原子爆弾が人間社会にもたらす被害」を冷静に浮かび上がらせている点が特徴です。

感情に訴えるだけでなく、核兵器の現実を事実と証拠から理解したい人に、是非観て欲しい作品です。

戦争平和　4　対象：中学生～一般

広島の路面電車は戦地に召集された男達に代わり 10 代の少女達が動かしていた。

15 才の弥生は朝の車掌業務に就く際に被爆、最愛の母と大勢の仲間を失い、悲嘆にくれる。

しかし、被爆から３日後、廃墟の中を弥生の乗った電車が警笛を高らかに鳴らして走り始めた。

死と絶望の中で生き抜いた実在の少女を主人公に、風化させてはならない原爆の記憶を分かりやすく伝える物語です。

人権教育　56・57

①対象：中 1～一般　②対象：教師～一般

男らしさ、女らしさといった考え方は人に無意識に存在します。

例えば「スイーツ男子」という言葉。この言葉の裏にはどのような性別の固定概念が潜んでいるのでしょうか。

また、教育の場においてそうした固定概念はどのような影響をもたらしているのでしょうか。

ジェンダー・ステレオタイプを取り巻く、多くの事例について考えることができます。

性自認、性役割、性的指向といったジェンダー学における「性」の考え方について学び、性のあり方の多様性について様々な事例をもとに考えます。

多様な「性」を認める社会をつくる上で直面する多くの課題とは一体、どのようなものなのでしょうか。

≪教材活用部からのコメント≫

2025 年度冬号のテーマは「戦争平和」と「人権教育」です。日本国憲法の前文に「・・・政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。」とあり、第三章「国民の権利及び義務」に「基本的人権」や「個人の尊重と公共の福祉」等の記載があります。また、人々の生命や穏やかな生活など様々なものを奪う戦争は、しばしば「最大の人権侵害」と言われます。我々の社会が平和であることにより人権が守られ、個人の人権が尊重されることで、平等で自由な生活を送ることができるのではないでしょうか。

そして、その人権を守るために物事を知り、考えるのは他でもない私達一人ひとりです。